

# 震災に負けず 市民とともに創る大船渡の未来

## はじめに

大船渡市は、岩手県南東部に位置し、V字型あるいはU字型の奥行き深い大船渡湾、綾里湾りょうりわん、越喜来湾こらいわん、吉浜湾を有し、急峻な山地が海岸線まで迫る典型的なリアス海岸で、碇石海岸をはじめ変化に富んだ景観と海・山の豊かな自然



大船渡魚市場で水揚げされるサンマ

資源に恵まれた地となっています。

古くは農業と漁業を生業なりわいとしてきました。明治14年の軍艦「雷電」の入港を機に、大船渡湾の港としての重要性が注目されました。昭和27年に2町5カ村が合併して大船渡市が誕生し、臨海型工業都市の形成を目指して積極的に工業導入が図られ、セメント産業などが発展するとともに、水産加工業も盛んに営まれ、工業・水産業のまちとして発展してきました。平成13年には、第1次産業が盛んな三陸町との合併により、「海と港」とともに発展するまち新生・大船渡市が誕生しました。

## 「海と港」を生かした まちづくり

黒潮と親潮がぶつかり合う世界有数の三陸漁場に面する本市で

は、全国でも有数の水揚げを誇るサンマをはじめ、サケ、イカ、サバなどの魚介類が年間を通じて水揚げされます。

また、沿岸海域では、リアス海岸の静穏性を生かした養殖漁業が営まれています。

美しい自然が広がる三陸海岸は、クルーズ客船の寄港地としても注目され、大船渡港には、例年、日本最大の客船「飛鳥II」をはじめとするクルーズ客船が寄港します。乗船客からは、市民の心のこもった手づくりの歓迎や触れ合いが大変好評で、毎年多くのリピーターを迎えています。

大船渡港は、岩手県内の4重要港湾のうち唯一国から重点港湾に指定されており、京浜港と結ぶ国際フェリーライン定期航路が開設されています。



クルーズ客船寄港時の様子

## 東日本大震災の発生

私は、平成22年12月に第9代市長に就任しました。協働のまちづくりの実現に向け、各種施策を始動した矢先の平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。本市は震度6弱の大地震と11mを超える大津波により、死者・行方不明者419人、建物被害5581世帯など未曾有の被害を受けました。被災後直ちに災害対策本部を設置し、情報収集や関係機関との連絡調整、応急対応に奔走しまし

た。過酷な状況の中で、市民は互いに助け合い、消防職・団員をはじめ、多くの方々が懸命に救援・救助活動に当たり、誰もが協力し合う姿に人々の持つ底力を感じました。

また、国内はもとより、世界各国からさまざまな支援をいただきました。本当に感謝に耐えません。ありがとうございます。

## 震災に負けず、 創造的復興への挑戦

平成23年10月、市民や各種団体など多くの人々の参画の下「大船渡市復興計画」を策定しました。計画では、被災者の生活・住宅再建やライフラインの早期復旧とともに、災害を機に生活基盤や産業都市基盤などの在り方を創造的に見直す「創造的復興」を推進する内容となっています。復興計画の約2600のプロジェクトのうち、これまで約7割が完了、または当初の目的を達成し、残りの約3割もほとんどが進行中であります。

市内経済は、公共事業中心の復興需要で活況を呈していますが、需要収束を見据え、今の好調な経済を維持するため、民間主導の実

力経済への円滑な移行が不可欠と考え、官民連携でのプロジェクトの推進に取り組んでいます。

被災した中心市街地である大船渡駅周辺地区を広域的な商業・観光の拠点として再生を図るため、まちづくり会社「キャッセン大船渡」を官民の出資で設立し、商業者などと連携して魅力あふれるまちづくりを進めています。

新たな事業や産業を創出し、将来の雇用の場を確保するため、起業支援に力を入れています。新たに起業支援室を設置し、経済同友会などが中心となって立ち上げたプロジェクト・東北未来創造イニシアティブや岩手大学と連携しながら、「未来創造塾」により、若者を対象に起業家育成に取り組んでいます。

また、交流人口の拡大を図るため、「大船渡市観光ビジョン」を策定し、多様な「資源」の有機的な連携による観光客の誘致などを積極的に推進しています。

## おわりに：創造的復興 から地方創生へ

2年前、私は市長第2期目の就任に当たり、「内外に山積する多

様な地域課題の克服に挑戦し、地域産業を活性化して市民所得の向上と人口減少の歯止めを全力を尽くす」ことを市政目標に、創造的復興をはじめ、子育て支援、保健・医療・介護・福祉、産業振興、教育など10の総合的政策を掲げました。いずれの政策も復興と歩みを同じくして着実に進んでいます。

本市では、少子高齢化と人口減少が進行しています。人口減少に歯止めを掛けることは行政だけで実現できるものではなく、市民、各種団体、企業などの総力を結集した「オール大船渡」で当たらなければなりません。震災復興で生かされた絆とネットワークを生かしながら、協働のまちづくりを一層推進すべく地域課題の克服に挑戦し続けます。

## プロフィール

- ◆ 面積 322.50 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万7734人
- ◆ 世帯数 1万4790世帯

〔将来都市像〕ともに創る 三陸の地に輝き躍動するまち 大船渡

〔まちの特徴〕リアス海岸の景勝地・碓石海岸や三陸沿岸最高峰の五葉山、天然の良港大船渡港など風光明媚なまち

〔市町村合併〕平成13年11月15日、三陸町を編入合併



大船渡市長  
戸田公明



〔特産品〕サンマ、カキ、ウニ、ホタテ、ワカメ、紫雲石硯、ころ柿、かもめの玉子、エイサク飴

〔観光〕碓石海岸、世界の椿館・碓石しゃくなげの湯つこ五葉温泉、遊・YOU・亭夏虫、道の駅「さんりく」

〔イベント〕碓石海岸観光まつり、三陸・大船渡夏まつり、盛町灯ろう七夕まつり、三陸大船渡さんままつり、三陸・大船渡つばきまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 元気で活力あるまち おけがわ

## はじめに

桶川市は、人口約7万5000人、総面積25.35km<sup>2</sup>で埼玉県のほぼ中央部に位置するまちです。

古くは、江戸から10里、中山道6番目の宿場町として栄え、江戸時代後期には、米や麦、紅花など農産物の集散地として大変にぎわいました。特に紅花は、「桶川臙脂」として、山形の「最上紅花」に次いで全国2番目の生産量を誇り、最上地方では、7月に収穫するのに対し、気候が温暖な桶川では一足早い6月に収穫することができたため、「早庭(場)もの」とも呼ばれておりました。

本市は、昭和30年に桶川町と加納村、川田谷村が合併し、昭和45年に県下31番目の市として誕生しました。市制施行後は、土地区画整

理事業を中心とした都市基盤整備が盛んに行われ、都心から40km圏内ということもあり、東京方面への通勤・通学に便利な首都圏近郊の住宅都市として発展してきました。

## 元気なまちづくりは 元気な市役所から

平成25年4月の市長就任の際、「元気で活力あるまちづくり」をキャッチフレーズに、「桶川を元気にする44の宣言」を掲げ、喫緊の課題の対応プラス、将来への投資的事業を積極的に推し進めてきました。

また、まちを元気にするには、市役所が元気にならなくては、との思いから「庁内あいさつ運動」や「各課朝礼の実践」など、すぐに取り組めることは、即実践する体制を整えました。朝礼では、あいさつの発声に続き「市民の声を聴くと

きの基本姿勢」の唱和を行います。

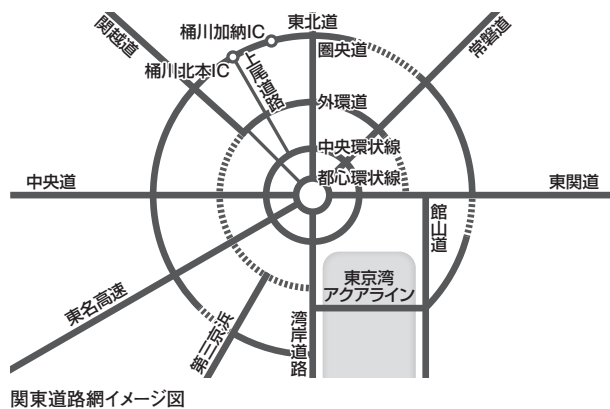
- ①「謙虚に市民の声を聴きます」
- ②「できる理由を考えます」
- ③「スピードアップ！今やります！」
- ④「学び続けます」

このことを実践してから、最近では市民の皆さまから「市役所の職員が明るく声を掛けてくれるようになった」とのお声をいただくようになりました。

## 首都圏の交通結節点として 高いポテンシャルを持つまち

市制施行45周年を迎えた平成27年には、これまでのJ・R高崎線の「湘南新宿ライン」に加え、東海道線との相互直通運転となる「上野東京ライン」が開通し、通勤・通学などで鉄道を利用される皆さまの利便性が格段に向上しました。

また、平成27年10月に、圏央道



(首都圏中央連絡自動車道)の埼玉県内全区間が開通し、桶川北本IC(インターチェンジ)に続き、桶川加納ICと2つのインターチェンジが開通しました。さらに本年4月には、桶川北本ICと上尾道路が接続されたことにより、全国の高速道路と首都圏を結ぶ交通結節点として、まちのポテンシャルが高まると同時に交通利便性が飛躍的に向上しました。さらに、この7月にJ・R桶川駅西口から、羽田空港行



平成27年10月にオープンした「OKEGAWA honplus+」

本市は、首都圏近郊の良好な住宅都市

今、飛躍の時  
「持続可能なまち」を目指して

さまざまな催し物が行われ、中心市街地の新たなにぎわい創出と活性化が図られました。

「知の交流拠点」と位置付けられた当該施設では、官民連携によるさまざまな催し物が行われ、中心市街地の新たなにぎわい創出と活性化が図られました。

平成26年には大型商業施設「ベニバナウォーク」がオープンし、さらに、平成27年10月には、駅西口商業施設「パトリア桶川」のリニューアルオープンに合わせて、大型書店・市立図書館・カフェ・リラクゼーション施設・イベントスペースが一体的に整備された「OKEGAWA honplus+（オケガワホンプラス）」が誕生しました。

## OKEGAWA honplus+ 「官民連携による 知の交流拠点」

き的高速バスの運行が開始されるなど、地の利を生かした、便利なまちづくりが着々と進んでおります。

超高齢社会を迎えるに当たり、本市では誰もがいくつになっても住み慣れた地域でいきいきと活躍

おわりに  
「誰もがいくつになっても  
いきいきと暮らせるまち」  
を目指して

これらの事業を通して、今後も持続可能なまちを目指します。

⑤民間活力を導入した地域拠点の形成「坂田地区公共施設等整備事業」

④戦時中の一群の建物が現存する全国的にも貴重な戦争遺構「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場整備事業」

③インバウンド観光、観光総合窓口、産業振興、広域防災拠点としての機能を有する（仮称）道の駅おけがわ整備事業」

②まちの玄関口となる「桶川駅東口整備事業」

①平成30年5月の開庁を予定している、まちの防災拠点を担う「新庁舎建設事業」

として発展してきましたが、現在、市では将来への投資的プロジェクトとして次に掲げる各事業に取り組んでいます。

できるまちを目指し、「健康長寿プロジェクト」を立ち上げ、各種事業に取り組んでおります。

高齢者の方が、市の実施する健康診断や講座などのイベントに参加するとポイントが貯まり、いろいろなグッズや商品と交換することができ「健康長寿いきいきポイント事業」をはじめとして、「公園への健康遊具の設置」「いきいき健康

農園の整備」「オケちゃん健康体操の普及」など、高齢者の方の社会参加や健康づくり・生きがいづくりを促すきっかけを提供しています。

今後も、本市の将来像である「みんなので づくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ」の実現を目指し、市民の皆さまとともに元気で活力あるまちづくりを進めてまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 25・35km
- ◆ 人口 7万5152人
- ◆ 世帯数 3万1321世帯

〔将来都市像〕 みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ

〔まちの特徴〕 中山道の宿場町として栄えた歴史を持ちながら、現在は圏央道の2つのICを有する全国と首都圏を結ぶ交通の要衝としてのまち

〔特産品〕 べに花、紅花うどん・そば、甘露醤油、和菓子・紅花染めなどのべ



桶川市長  
小野克典

### に花関連商品

〔観光〕 城山公園、桶川子ども公園、わんぱく村、桶川市べに花ふるさと館、中山道宿場館、旧熊谷陸軍飛行学校（現在調査のため解体中）、ホンダエアポートなど

〔イベント〕 べに花まつり、桶川市民まつり、桶川祇園祭、おけがわ春のふれあいフェスタ、篠津さくらまつりなど



※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 吉宗將軍就任300年をきっかけにした 歴史と文化が薫るまちづくり

## はじめに

和歌山市は、徳川御三家の一つ、紀州藩55万5000石の城下町として栄え、悠々と流れる紀の川や和歌の浦・加太などの海岸美、豊かな緑をたたえた山々など恵まれた自然環境と万葉の時代からつながらる歴史文化を兼ね備えたまちです。

本市は、明治22年4月1日に市



江戸幕府8代將軍を務めた「徳川吉宗公之像」

制が施行されて以来、和歌山県の県都として政治、経済、文化の中心的な役割を担ってきました。また、関西国際空港まで約30分と「世界」に近い中核市でもあります。

## 吉宗の生まれ故郷 「和歌山市」

本市は、享保の改革などで知られる江戸幕府8代將軍徳川吉宗の生まれ故郷です。そのため、本市にはさまざまなゆかりの地があります。当時の風習で、厄年に生まれた吉宗の健康を願って捨てられたという逸話があり、その吉宗を拾い上げて厄をはらったのが本市にある刺田比古神社さすたひこじんじやの宮司だといわれています。吉宗は、その後、強運を得て、異例の出世をしたことから、刺田比古神社は、「出世・開運・厄除け」の神社とされています。

ます。ほかにも生誕の地、報恩寺、紀州東照宮などゆかりの地はいろいろありますが、一番のおすすりは吉宗が紀州徳川家5代藩主として城主を務めた和歌山城です。残念ながら現在の天守閣は当時のものではなく、戦火により焼失した後に市民の寄付などにより再建されたものになります。市街地の中心にある虎伏山とらふすやまにそびえ立つ姿は壮観で、頂上から360度見渡せる景色は見応え十分です。なお、和歌山城は「日本の名城100選」に選定されているとともに、姫路城、松山城と並んで、日本三大連立式平山城と称されています。

和歌山城の魅力をさらに高める取り組みも進めています。平成27年は、和歌山城と郷土の人物についての歴史展示室、観光案内所、観光土産センターを併設した

「わかやま歴史館」がオープンしました。また、大奥といえは江戸城をイメージされる方も多いと思いますが、和歌山城にもかかわらず大奥が存在していました。その大奥の復元に向けた和歌山城整備計画の見直しや吉宗が捨てられたとされる扇の芝の復元などにも取り組んでいます。

## 吉宗將軍就任300年

さて、本年は徳川吉宗が將軍に就任してから300年になります。吉宗といえば質素儉約の励行や目安箱の設置などで有名ですが、このほかにも後世に残るさまざまな取り組みを行っています。吉宗は飛鳥山や隅田川堤などへの桜の植樹を行い、花見の風習を広めたといわれています。また、いろは組などで知られる江戸の町火消を制度化したのも吉宗で、現在の消防団の基礎となっているといわれています。

吉宗のふるさと和歌山市としては、この記念すべき年を絶好の機



日本三大連立式平山城の一つ「和歌山城」

会ととらえ、「吉宗將軍就任300年記念事業」として、いろんなイベントなどを実施し、うまく本市のPRにつなげていきたいと考えています。まず、商品やイベントポスターに使用してもらえらう、誰でも自由に使えるロゴマークを作成しました。また、大型ショッピングモールと連携したキャンペーンを実施するなど、地域とともに盛り上げる仕組みを考えました。このほかにも、オリジナルフレーム切手の販売や博物館でのイベントなどさまざまな取り組みを実施してきました。

この9月には、吉宗が東京赤坂に造営を指示した赤坂氷川神社と連携し、神社例大祭において、本市で約400年続く「和歌祭」の行列を派遣するなど、首都圏でのPRにも力を入れたいと思います。吉宗が將軍に就任したのは新暦でいうと9月28日となります。その周辺を「吉宗ウィーク」と位置付け、吉宗に関連したイベントなどを実施しますので、ぜひ本市を訪れてください。

### おわりに

本市は、吉宗のほかにも南方熊楠、松下幸之助、有吉佐和子などさまざまな偉人先人を輩出してきました。吉宗將軍就任300年は、県外にPRする機会であることはもちろん、市民に歴史を再認識してもらうよい機会でもありません。今後は、和歌山城を中心として、数々の偉人を生み出した本市の歴史と文化を感じることができ、まちづくりを、市民の皆さんと進めていこうと思います。

また、今、本市には大きなチャンスが訪れています。本年度は第二阪和国道と京奈和自動車道が本市まで開通するということで、交

通環境は大きく改善されます。観光面ではインバウンドの増加により外国人宿泊者数はここ4年で約18倍に増加するなど、関西国際空港から近いメリットが形になって表れてきました。また、市民会館、市民図書館の耐震化や老朽化によるまちなか公共施設の再編、小中一貫校の設置による小中学校跡地への大学誘致など、まちなかにぎわいを取り戻す絶好の機会でも

あります。こうしたさまざまなチャンスがある反面、今後は人口減少と少子高齢化がさらに進み、社会保障の負担も増大していくことから、待ったなしの状況でもあります。自治体として社会保障などを安定的に提供し、圏域を支える県都としての都市機能を維持するためにも、「今すぐやらねば！」の決意の下、職員と一丸となって頑張ります。

### プロフィール

- ◆ 面積 208.84 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 37万3961人
- ◆ 世帯数 17万2529世帯

〔将来都市像〕きらり輝く 元氣和歌山市

〔まちの特徴〕紀伊半島の北西部に位置する豊かな自然と温暖な気候に恵まれた歴史と文化が薫る城下町

〔特産品〕新生姜、大根、タケノコ、加太のタイ、しらす、アジアカエビ、和歌山ラーメン、茶がゆ



和歌山市長  
尾花正啓



〔観光〕和歌山城、友ヶ島、和歌の浦、和歌山マリナーシティ、和歌山電鐵貴志川線(ネコの駅長)、岩橋千塚古墳群

〔イベント〕桜まつり、和歌祭、紀州おどり「ぶんだら節」、おどろんや〜紀州よさこい祭り〜、港まつり花火大会、食祭WAKAYAMA、和歌浦ベイ馬拉ソンWITジャズ

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## わが

日本一幸せあふれるまち  
「いしがき」を目指して

## はじめに

石垣市は、沖縄本島から南西約450kmに位置し、石垣島と尖閣諸島を行政区域とする日本最南端の自然文化都市です。沖縄県内最高峰の於茂登岳を中心、八重に連なる山々を背にして、南には平坦地が広がり、四方には河川が流れ、湾岸、岬など豊かな自然環境がさまざまな風景を織りなしています。

昭和22年に市制を施行して69年目を迎える今日、空港、港湾の整備、南ぬ島石垣空港の開港を機に増加する観光客や、クルーズ船の入港による海外からの入域客数の増加など国内外からの注目も高く、マリンドイビング国内エリア部門においては、14年連続1位を獲得しております。

島の自然環境を守り生かす  
「いしがき」を目指して

本市には、世界に誇れる豊かな自然があります。国内最大のサンゴ礁海域である石西礁湖は東西約20km、南北約15kmにわたって広がっており、陸域、海域ともに貴重な動植物の種の宝庫であります。本市ではこのかけがえのない自然を保全するため、平成19年に西表石垣国立公園の指定を受け、自然環境の保護を図っております。

また、88ある星座のうち84の星座を見ることができる本市では、本年度、15回目を数える「南の島の星まつり」において、全島一斉ライトダウンを行い、島全体で星を楽しむイベントを開催しております。さらに、観光資源の一つであるこの星空の魅力と価値を向上

させるため、国内初の「星空保護区」の認定を目指しております。

島の魅力あふれる  
「いしがき」を目指して

本市の魅力は、自然、観光のみならず、本市の特産物であるパイナップルもその一つです。平成2年に沖縄県は8月1日を「パイナップルの日」として制定しました。

石垣島は沖縄本島に比べ早い時期に旬入りを迎えることから、収穫時期も1カ月程度早くなります。そのため、石垣島産のパイナップルを美味しい時期に食べていただく取り組みとして、本市独自で6月1日を「パイナップルの日」に制定し、消費拡大を図っていくこととしています。

また、6次産業化の取り組みとして、石垣島産パイナップルを



6月から8月がトップシーズンとなる石垣島の特産品、パイナップル

原料とする特産加工品づくりに向け、商工部門と農政部門が連携して取り組んでおり、生食用、加工用パイナップルの生産振興などを通じて石垣島産パイナップルのさらなるブランド化を目指していきます。

本市は年間の平均気温が24℃という温暖な気候を生かして、スポーツツーリズムを推進しております。平成27年度では、リオオリンピック出場の内23サッカー日本代表合宿、サッカー女子日本代表の合宿、千葉ロッテマリーンズのキャンプ、大学野球チームの合宿など、着実に実績を積み重ねております。また、千葉ロッテマリーンズと台湾のラミーゴモン



日本最南端の重要港湾である石垣港

キーズの交流戦では、台湾から多くの応援団が本市を訪れ、新たな観光およびスポーツ交流の可能性を創出することができました。今後は、東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツツーリズムをさらに推進させるため、「石垣スポーツコミッション」の創設に向け検討を進めているところです。

## 人をもてなすふれあいの「いしがき」を目指して

本市の入域観光客数は、南ぬ島石垣空港の開港に伴い、順調に推移しており、さらなる観光客の増

加に向け、本年も引き続き、国内外からの観光客受入基盤体制の強化と人材の育成を進めてまいりたいと考えております。

南ぬ島石垣空港においては、沖縄県と連携して国際線ターミナルビルの整備拡充を進めており、台湾や香港などに近い本市の地理的条件を生かし、国際化に対応したターミナル機能などの利便性の向上を図ることで、アジア圏などからのチャーター便や定期路線の開設、新規航空会社の参入などを促進し、持続的な観光振興・経済発展を目指してまいります。

日本最南端の重要港湾である石垣港は、沖縄本島と八重山諸島を結ぶ八重山圏域の経済活動を支える流通拠点として、また、隣接する竹富島や西表島などへの離島航路として人流・物流の拠点港としての機能を有しています。近年は、台湾などからのクルーズ船が定期的に入港しており、平成27年の寄港回数は84回を数え、客数も20万人を超えました。本年は、140回程度の寄港という大幅な増加が予定されています。このことから、大型クルーズ船の新しい岸壁の整備について、国とも連

携し埠頭用地の整備を進めてまいります。併せて、国内外からの多様なニーズに応えられる受入体制を構築することが重要でありますので、観光地の整備、外国語講座の開催など上質な観光地を目指してまいります。

## 結びに

本年3月に、地方創生における、本市の特徴を生かした総合戦略を策定し、同戦略に盛り込んだ

## プロフィール

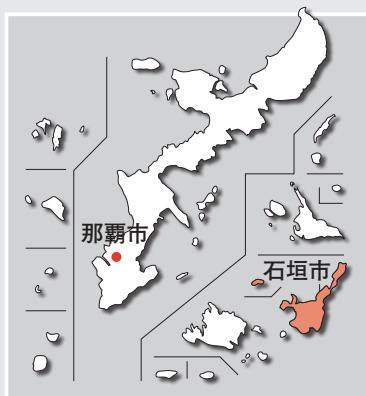
- ◆ 面積 229.34 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万9056人
- ◆ 世帯数 2万3437世帯

〔将来都市像〕島の魅力と人々の活力が奏でる海洋・文化交流都市「いしがき」

〔まちの特徴〕日本最南端に位置する、青い空と海が輝き、伝統文化が息づく自然文化都市



石垣市長  
中山義隆



〔特産品〕石垣牛、バイナップル、マンゴー、八重山ミンサー、泡盛、八重山上布、八重山かまぼこ

〔観光〕川平湾、玉取崎展望台、平久保灯台、御願崎、パンナ公園

〔イベント〕南の島の星まつり、石垣島まつり、石垣島マラソン、とうばらーま大会

施策を間隙なく進めていきたいと考えております。全国的に人口減少がまちづくりを進める上で大きな課題となっている中、本市の人口は増加基調にあります。私は、離島市にあって、人口増加を続ける日本最南端の本市から全国へ元気を吹き込む意気込みで、市民と一緒に頑張ってまいります。な施策を推進し、「日本一幸せあふれるまち『石垣市』」の実現に向け取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。